



ケアタウン小平 だより ~第9号~

2014. 7. 7

東奔西走 ⑨

～ うれしかったこと二つ ～

NPO 法人コミュニティケアリンク東京 理事長

ケアタウン小平クリニック 院長

山崎 章郎

この4月から5月にかけて、うれしいエピソードが二つありました。一つは、当法人では登録ボランティアの皆さん90名ほどが活動してくださっています。その内、約2割の方は、ご遺族の皆さんです。毎年、5月、そのボランティアの皆さんとスタッフとの交流会が行われています。今年は5月19日でした。総勢50人を超える参加者の中に、18歳の女性が2人おりました。どこかでお会いした方だと思っていたら、何と彼女たちは、当法人が『子育て支援』の一環として毎月一回開催している、「集まれ子ども広場」に参加していた子どもたちだったのです。当時小学4年生だったそうです。2人とも学生ですが、ケアタウン小平を忘れずに交流会に参加してくださったのです。うれしくて胸が熱くなりました。

さて、二つ目のうれしかったこと。この「東奔西走」⑦、⑧で2年続けてご紹介しました「ホームホスピス」がついに、ケアタウン小平チームの活動エリアに誕生したことです。宮崎県宮崎市に初めて誕生した「ホームホスピス」とは、民家を改修し、病気や、高齢で一人での生活の難しい人々が、5、6人で介護や食事サービスを受けながら、共同生活を営む家とその取り組みのことを表しています。

私たちケアタウン小平チームは人生の最期を在宅で過ごしたいと望まれる方々のお手伝いをしておりますが、独り暮らしや老老介護で、在宅での生活の継続が困難になってしまいますと、否応なく病院への入院や集団生活の高齢者施設への入居を余儀なくされることも少なくありませんでした。

しかし、ホームホスピスであれば、少人数の家庭的な雰囲気の中で、ケアタウン小平チームの在

宅24時間の医療・看護サービスやデイサービスの下、そこを終の棲家にすることも出来るのです。ですから、宮崎で取り組まれている様なホームホスピスが、小平の地に出来ることを長い間待ち望んでいたのです。4月20日、小平市の一橋学園駅から徒歩7分、マンションを改修した、その都市型ホームホスピス「樫」(『ゆずりは』と読みます)のオープンハウスに参加しました。清潔で、アットホームな暖かい雰囲気は、まさに家族が暮らす家そのものの雰囲気でした。(ホームホスピス「樫」へのお問い合わせは☎042-315-8152です)

これで、ケアタウン小平のアパート「いつぶく荘」に加え、在宅ホスピスケアの新しい選択肢が一つ増えたこととなります。心からうれしいと思いました。

以上、ケアタウン小平が地域に根付き、これからも地域と共に成長していけることを実感した、うれしいこと二つでした。



松本

山崎

石巻

※4月より ^{かくや}松本学也医師が加わりました

私が訪問看護ステーションで働くようになって、新鮮だったことの一つが「名刺」をもつことでした。訪問先で初めてお会いする方には、挨拶と一緒に名刺をお渡しします。当ステーションは、24時間365日いつでも対応できる体制をとっていますが、まず電話口で「あ、〇〇さん」とわかることで、電話される方の緊張が少しでもほぐれたらよいと思います。さてこの名刺には、名前の他にも大事なことが書かれています。“あなたらしさを支えます”一見、ありふれた言葉ですが、今あらためてこの言葉の意味を考えてみました。

毎週訪問しているAさんは、病気のために話しをしたり、うなずいたりすることが出来ません。ご家族はAさんの表情や顔色、力の入り具合などから気持ちや身体の調子を丁寧に読み取ることができます。痰が絡むと器械でそれをとる必要のあるAさんは、長い時間の外出は困難ですが、天気の良い時には訪問時に20分ほど車イスで外気浴に出ます。ご自分で動くことが出来ないAさんをご家族が細心の注意をはらい車イスに移します。外の空気に触れると、辺りを見まわすようにAさんの視線がゆっくり動きます。春は色とりどりの花、夏は雲の動き、秋は栗林の栗の実、冬は葉の落ちた枝にくる鳥のさえずりが楽しみです。下校途中の小学生、幼稚園の送迎バスや、お迎えに出ている若いお母さん、昔からのご近所の方にも出会います。近所の犬や猫に会うのも楽しみです。一緒に歩いていると、一日として同じ日はないので、この一瞬を大切にしたいと実感しています。

Aさんは、人や動物、植物が大好きで、以前は旅行に出かけたり、庭の手入れをしたり、多いときには猫を10匹以上お世話されていたそうです。この外気浴は気分のリフレッシュ以上に、Aさんの好きなことを続け、ご家族

と一緒にAさんらしさを支えることになるのだと思っています。

病気や障害を持つことの辛さの中には、「わたしらしさ」を見失ってしまうことの辛さがあります。しかし普段の生活で「わたしらしさ」を意識することはあまりなく、かえって身近にいる人に「あなたらしい」と言われ、自分では気づいていない「わたしらしさ」が見えてくることがあります。訪問に伺っていると、「あなたらしさ」は会話に限らず、表情や態度、家の様子などその方を取り囲む全てのものからにじみ出てくるものだと感じます。これからも、「あなたらしさ」を支えていけるような関わりを大切にしたいと思います。



後列 野村、岩田、中川、富澤、林、岩本
前列 樋口、蛭田、堀切、吉村、小西



あなたらしさを支えます

NPO法人コミュニティケアリンク東京
ケアタウン 小平訪問看護ステーション 〒187-0012

事業所NO. 1367198112

看護師 堀切 緑

「あなたらしさを支えます」
この言葉が名刺に入ったいきさつ、
発案者など、設立時のメンバーも
実ははっきり覚えていないのです。
残念！

一笑懸命 ⑨

ケアタウン小平デイサービスセンター

～安心・安全なデイサービスを目指しています～

介護士 千葉 正

私はこの仕事を始めて3年になります。もともと介護の知識などまったくなく、姪（介護士）の助言もあり、ヘルパーの学校に通い資格を取ったのですが、不安な日々の連続でした。しかし、素晴らしい仲間指導を受け、支えられ、ご利用者さんがデイサービスで楽しく過ごされる環境作りをしています。

安心、安全はケアタウンの中だけではなく、送迎における交通ルールを守る走行は勿論のこと車内での安心、安全もそのひとつです。

当初はご利用者さんとどのような会話をしたらよいのか、ご家族への対応はどうしたらよいのかわからず緊張の毎日でした。しかし日々添乗して下さるボランティアさんの大きな協力のおかげで、車内の仕事のあり方が少しずつ分かってきました。例えば、車窓から四季の風景を見ているご利用者さんに気が付き、会話をすることや、お体を気遣う言葉など「何気ないご利用者さんへの気配り」を目の当たりにして、「相手の立場になって物事を考え、心を配ることが大事なんだなあ」と痛感させられたことです。

車の乗り降りに注意を払い、車内ではご利用者さんの表情の変化や安全ベルトの位置、車いすのブレーキは定位置で固定されているかなどをボランティアさんと共に気を付けております。

今は帰りの送迎でご家族の方々にデイサービスでのご様子やレクリエーションの内容など楽しく過ごされたことを簡単ではありますがお伝えするようにしております。また、ご家族からのご相談、ご依頼を職場に持ち帰りミーティングで解決策を練り、ご家族とのつながりに役立ちたいと考えております。

ご家族の中には車が見えなくなるまで手を振って下さる方もいらっしゃいます。そんな姿を見ると、「頑張らなくっちゃ」という気持ちになることがあります。また、この仕事を始めて最初に出会ったご利用者さんが、不自由なお体にも関わらず送迎の際、奥様と共に「ありがとう」と言って笑顔で手を振って下さった時に、以前の仕事では経験のしたことのない感動を覚えたことがありました。しかし、この方とは最初のお別れにもなっていました。

一日一日を大切にされている姿に接し、私たち介護に携わる者が、チーム一丸となってご利用者さんの心に寄り添い、その方にあったケアをしていかなければならないと感じました。

これからもご利用者さんが安心、安全にケアタウン小平デイサービスセンターで過ごされるよう『気付き』を大切にしていきたいと思います。



千葉です。
以前は、
営業マン
でした。

後列 合田、林、ギルダート、時光、千葉
前列 錦織、沼尻、ますお



はじめまして
清水です。
ケアマネージャーです。
次のページへ
どうぞ！

試行錯誤

ケアタウン小平ケアマネジメントセンター

ケアマネージャー 清水 利朗

当センターが事業を開始したのは、昨年（平成 25 年）11 月 1 日です。NPO 法人コミュニティケアリンク東京が、在宅ホスピスケアチームをより充実させる目的で、居宅介護支援事業所をスタートさせ半年が過ぎました。私は、その開設に際し、ケアタウン小平の取り組みに参加しました。

わずか半年の間にも、通常の居宅介護支援事業所が関わる件数とは比べようもないほど、多くのターミナルケアに関わることとなりました。多くの方の死に接することになり、戸惑うことも多くあります。しかし、本人・家族と接し関わりながら「やっぱり家がいいね。一番いいね」、「最期は家で自分らしく迎えたい」、「家で一緒に過ごしたい」などのお話を伺い、その思いを叶えるお手伝いを、微力ながらも行えることを嬉しく感じています。

クリニック、訪問看護、デイサービス、その他福祉用具の事業者などと連携し、本人・家族が自宅で不安なく穏やかに過ごせるよう、介護サービスを提案・提供することが、私の主な仕事です。

具体的には、身体を動かすことが不自由になったら介護用ベッド、寝返りができなくなったらエアマット、お風呂に入りたいが動けず入れなければ訪問入浴を手配します。クリニック、訪問看護などとも連携を密にして、医療的な情報を共有し、本人の状態、病状を把握し、家族の状態も適切に把握します。そして、在宅介護への負担感や不安感を生じさせないように、サービスを提供していくことを心がけています。

文字にするとシンプルです。しかし、個々の状況・タイミングなどは様々で、どうお手伝いをしていけばいいか悩むこともあります。まさに『試行錯誤』の日々です。そうした中であって、足りない部分、至らない部分をケアタウン小平のチームメイトが補い助けてくれます。とても有り難く感謝しています。

まだまだ形にならないケアマネジメントセンターですが、地域に根ざして最良な在宅ホスピスケアを提供していけるよう、努めていきたいと思えます。

どうぞよろしく願いいたします。

第6回遺族会ケアの木総会を行いました

2014年5月18日（日）

場所：小平市立御幸地域センター

参加者 30名

2008年に発足した「ケアの木」も6年が経ちました。会員数は、143世帯です。

今回は、訪問看護ステーション蛭田所長が「緩和ケアにおける看護の魅力」と題した講演が行われ、後半は、会員同士が、現在の思いや生活の話、自らの老いや死について、「大切な人を亡くす」という経験から思うことなどを、涙あり、笑いあり、最後は和やかな雰囲気の中で語り合う時間となりました。



縦のつながり・横の広がり ～息の長い「市民育て」を目指して～

子育て支援事業 理事 ^{かわべたかこ}河邊貴子

ケアタウン小平の取組みがスタートして9年。NPO 法人コミュニティケアリンク東京の子育て支援事業の活動も、同じ年月を重ねてきました。毎月1回行ってきた「集まれ子ども広場」の活動もすでに100回近くになり、毎回20名程度の子ども達がコンスタントに集まっています。アトリエの絵本の蔵書も、多くの方のご寄贈のおかげで1000冊を超えました。

この3月、2人の高校3年生が嬉しい報告に来てくれました。小学生の頃に、毎月参加してくれていた美佳さんと遥さんです。美佳さんは福祉を学ぶ大学へ、遥さんは、ペットの理容や健康管理などを行う、「グルーミング」の専門学校に進学することになったというのです。美佳さんは「ケアタウン小平での体験が、自分の進路を決定付けた」と言いました。中庭で遊び、ときにはデイサービスの利用者やスタッフと触れ合う。美佳さんは地域で支え合うことの大切さを身に染みこませたのでしょう。遥さんはよく愛犬と共に遊びに来てくれていて、人を元気づける動物の力を確信したのだと思います。私たちの目指す地道な「市民育て」の種が芽を出そうとしています。

このような「縦のつながり」が確かな歩みとなりつつある一方で、「横の広がり」も芽生えています。子どもが地域で安心して育つこ



河邊 (写真中央)

こども広場のみんな(乳児～おとな)と、協力団体 NPO 法人アフタフ・バーバンのスタッフさん

とが最大の子育て支援と考え、これまでの活動は子ども対象でした。ところが6年ほど前から、デイサービス所長の錦織さんの発案で、水曜日にボランティアさんのリードによる、『English Time!』という活動が行われるようになり、近隣の親子連れも参加するようになったのです。ママの胸に抱かれたまま雰囲気を楽しむ子どももいれば、英語の歌に合わせて前に出て踊る子もいます。0歳児からお年寄りまでが、垣根なく一つの場所で一つの活動を楽しむという、ケアタウン小平らしい素敵な活動になっています。

活動日に合わせてボランティアさんに絵本コーナーにいてもらうようにしたところ、立ち寄る親子が増えてきました。子どもはボランティアさんに絵本を読んでもらったり、ママも子育ての悩みをちょっとこぼしてほっとしたり。絵本があるからというだけでなく、そこに誰かが待っていてくれるからこそ生まれた流れです。

この9年間、ただ場所を提供しただけではだめなのだ、「人」は「人」がつながるのだということを経験し続けています。

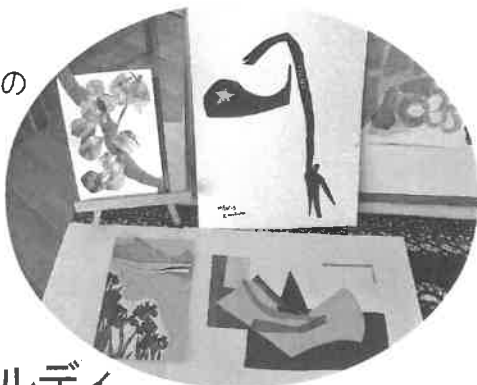


特集：人集うところに文化あり ②

今回は、いっぷく荘入居者さんが主体となって行う活動や、ボランティアさんも参加して行っているグループ活動を紹介します。

火曜日 コラージュ

広告チラシやカレンダーなどの廃物を利用して、自由なイメージで造ります。



水曜日

合唱コール・メルコルディ

応援フェスタでの発表を目指し、毎週特訓です！



木曜日 BJヨガ

呼吸を整え、身体の動きを確かめながら行います。BJとは「ばあば&じいじ」の略。



金曜日 絵画グループ

季節ごとの題材や人物画だってお手のもの。応援フェスタでは展覧会をします。



楽しそうだなあ。
びっくりするほど自由だな



入居者 畑野さん

いっぷく荘大家 長谷さん



思い立ったが吉日。「もう少し声ができれば……」
「身体を動かしたいわ……」「ささっと絵が描けたらなあ……」
そんな入居者さんたちのつぶやきから生まれた各グループです。
ボランティアさんや地域の方も参加します。
食堂タヴェルナが新しい出会いと交流の場になります。
もっと何かできるかもしれません。
次のつぶやきを、楽しみに待っています。

文化は生活を彩り、人の輪を広げます。

建物や空間、人の交流に たくさんの彩りがあることが「ケアタウン小平らしさ」です。

～ご縁と時間の中で、学び、問われることがあります～

ボランティア 中村 美智子

水曜日、他の4人のボランティアさんたちと、いつぶく荘の食堂で昼食の配膳などの活動と、午後のコーラスグループ“コール・メルコルディ”にピアノ伴奏で参加して4年になります。

11時過ぎにボランティア室に入る時、デイビスではもうキッズ英語の時間が始まっていて歌声や手拍子が聞こえています。

昼食のお誘いに伺うNさんは廊下をゆっくりゆっくりと歩きながら下の芝生で遊ぶ子どもたちを見て「かわいいですねえ」とにこにこ。私が「Nさんは息子さんばかり4人いらしたからたいへんでしたでしょうか？」と言うと「そうですねえ…よく叱ってましたねえ」とまたニコニコ。

お会いした時はいつも必ず立ち止まって深々とお辞儀をして下さる方は、お膳を前にしても手を合わせて丁寧に一礼されます。その静かな動作は私の気持ちをきれいにしてくれます。

コール・メルコルディのメンバーで歌う時間は、下田先生が、おおらかながらもスピード感ある雰囲気でもとめ、引っ張って下さいます。「ちょっと～みんな下向いて歌詞ばかり見てないで私のことも見てよ～！ 合図出してるんだからさあ」の言葉に皆さん思わず顔を上げて笑います。歌い終わって先生の「いいじゃな～い！」のひと言が出た時は、私もピアノの前で小さく拍手します。終わり際に先生が「暗譜よ～歌詞覚えてきてね～」に入居者のIさん。また笑い声があがります。

先日、鉄道唱歌を歌いました。4番の歌詞に大森の駅名が出てきます。Hさんは、「僕ね、昔あの辺りで友達とビラ貼りのアルバイトしたことがあるんだよ。のりの缶片手に電柱に

美容院のチラシ貼るの」とのこと。

私が、「その頃は電柱に貼っても良かったンですなえ」と言うと「いやダメだよ～。だからおまわりにさんに見つからないように貼るンだよ。だって貧乏学生でお金なかったんだものお」そうだったんですか!? もう時効だから書いても大丈夫ですよ。思い出話からは、じんわりと笑いの種が芽を出しました。

この4年の間に私にもいろいろな出来事がありました。母は、認知症で大阪の実家近くのグループホームにお世話になり、現在88歳になります。孫も2人生まれて、4才と8ヶ月です。夫の母も85歳になり日々の生活に何かと手助けが必要になりました。

“いのちの両極”を行き来していると、今の自分が、受け継ぎ手渡していくために、きちんと生きているか問われている、と強く感じます。

ケアタウンとのご縁や、母が認知症にならなければ体感することのなかった大切な心が、空気のように流れている場所。私はケアタウン小平をそのように感じています。



下田 中村

～ みゆき往還 ⑨ ～

株式会社 暁記念交流基金

株式会社 みゆき亭 長谷 公人

ケアタウン小平のメンバーの一員に加えて頂いてから早くも5年が経とうとしております。たくさんの方々と出会い、多くのことを学ばせて頂きました。

スタッフの方々の仕事に対する真摯な姿勢、ボランティアの方々の様々な知識や技術や経験など、他の職場では得難い貴重な経験・体験をさせてもらっております。これからもどうぞよろしく願いいたします。

暁記念交流基金の仕事は、いつぶく荘にご入居の皆様とケアタウン小平で働くスタッフやボランティア、訪れる人達に安心を提供することです。

専門スキルを必要とする支援については専門家の方々をお願いしなければなりません。電気・ガス・清掃・植栽管理・防犯対策など、ケアタウン小平で安心した生活・仕事をする上での基盤となる部分をサポートしております。これからも黒子となってコミュニティーケアの実践をサポートしてまいります。

ケアタウン小平の建物自体も建設から月日が経ちました。来年は10年と言う区切りの年で建物全体のチェックをする時期でもあります。機械・設備など不具合のあるものがありましたら遠慮なくお伝えいただきたいと思います。

さて、話は変わりますが、平成26年4月1日から、暁記念交流基金の100%子会社であ

る株式会社みゆき亭がケアタウン小平の食事事業を請け負うことになりました。

みゆき亭の「みゆき」は御幸町の「みゆき」です。近隣の皆様から信頼を得られるよう、地域のお店との繋がりを強くし、おいしい食事を提供できるように努力してまいります。

また、皆様の希望献立を取り入れるなど、要望に出来る限り応え、気持ち良く食事が出来る環境を作っていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。



長谷 公人 郁子 芳人



みゆき亭の皆さん

～ ケアタウン小平で学び、発つ ～

小平すずきクリニック 院長 鈴木 道明

早いもので、ケアタウン小平にお世話になってから5年半がたちました。

今思えば、病院の医療に疲れていた私を救ってくださったのが、ケアタウン小平の皆さ

んであり、そして山崎先生でした。それからここまで、本当にいろいろなことを学ばせていただきました。ボランティアさんたちの働きを見せていただくのは初めての経験でした

し、介護のこともいろいろと教えていただきました。病院にいと医療以外のことは、そしてこの地域のことについても何もわかっていなかったことを実感しました。

病院でも緩和ケアについては少しはやっていたつもりでしたが、薬剤による症状のコントロールだけではないのだということに改めて気付かされました。緩和ケアのこと、訪問診療のこと、そして家で過ごし、看取るということ、すべてを教えていただきました。

このたび山崎先生、石巻先生を始め、皆様のご理解をいただき、2014年6月2日に小平駅前マンションの1室で医師一人の小さな在宅専門診療所「小平すずきクリニック」を開業いたしました。ケアタウン小平で教えていただいたこと基本にしながら、元々の専門である内科、呼吸器内科を主体に、慢性疾患の患者さん、さらにがんの方もお手伝いできればと思っています。何せ一人で始めるため、

各所にご迷惑をおかけしながらのスタートですが、小平市民として、微力ながら小平市、そしてこの北多摩地区のお役にたてればと思っています。

これからも同じ地域での医療、ケアを行うものとして一緒に学ばせていただき、そして、協力させていただければうれしいです。ケアタウン小平はすばらしいチームです。そのチームの仲間に入れていただいて、本当によかったと思っています。またいつか皆さんが持ち寄られた手料理をいただけることを楽しみにしています。そして、私の故郷である秋田のきりたんぼ鍋を、またご一緒にさせていたいただきたいと思っています。

ありがとうございました。



在宅療養支援診療所

小平すずきクリニック

小平市美園町1-15-2-405

TEL042-349-0015/FAX042-349-0020

<http://www.kodaira-suzuki-clinic.com/>

コミュニティケアリンク東京の活動にご協力ください

当NPO法人ではよりよい活動を展開していくために、皆様からのご寄付をお願いしております。ご寄付いただいた方には、ケアタウン小平だより等を通じて、当法人およびケアタウン小平の活動をご連絡させていただきます。

①郵便局からの払込の場合…

口座記号番号 00100-1-279489

加盟者名 (特)コミュニティケアリンク東京

※払込取扱票の通信欄に「寄付金として」とご明記ください。

②銀行からのお振込の場合…

ゆうちょ銀行 店名 〇一九店 (ゼロイチキュー店)

口座 当座・0279489

名義 特定非営利活動法人

コミュニティケアリンク東京

～編集後記～

☆最近、娘(2才半)に叱られます。叱り方が自分にそっくりで困ります。(企画・編集N)

☆「サザエさん」の波平・フネ夫婦が、波平54歳、フネ48歳で自分より若いと知った時はショックでした。「意地悪ばあさん」の伊知割イシは75歳くらいらしい。かろうじて私の方が若いので、これからは「愛される意地悪ばあさん」を目指そうと思います。(特集6ページ0)

☆子ども広場で育ったお子さんが、ケアの道に進まれた報告を読んで「ケアタウン」の芽が出てきたなと思いました。面としての広がり的一步ですね。ますます今後が楽しみです。(校正0)

発行 NPO法人コミュニティケアリンク東京

〒187-0012 東京都小平市御幸町131-5

TEL042-321-5985・FAX042-321-5982

<http://caretownkodaira.net/npo/>

9号のおわりに ～ ホスピスケアの可能性を担う NPO 法人として ～

NPO 法人コミュニティケアリンク東京

事務局長

なかがわ としのぶ
中川 稔進

みなさま、ケアタウン小平だより 9 号、いかがでしたか？

掲載されているスタッフやボランティアの言葉から、在宅ケアの息づかいや、ケアタウン小平の「今」を、力強くお伝えできたでしょうか？ 様々な場面からの発信を通じて、私たちをご理解いただけたら幸いです。

さて、このたよりの発行者である NPO 法人コミュニティケアリンク東京の大きな目的は、「在宅ホスピスケアの提供」にとどまらない「在宅ホスピスケアを通じた地域づくり」です。「地域づくり」を目指すには理由があります。この理由には、「ホスピスケアの可能性」が示されています。

日本における「ホスピスケア」は、「病院は、人が死ぬのにふさわしい場所か？」という現場当事者たちの自問自答から始まりました。「最期まで尊厳と自律ある生」を目指した草の根的な活動から、「ホスピス」「ターミナルケア」は大きなムーブメントとなり、緩和ケア病棟が医療保険制度に位置づけられました。しかし、制度上ほぼガンに特化した緩和ケア病棟のもつ限界の中で、原点である「尊厳と自律ある生」を求めて在宅ホスピスケアという動きが始まりました。

この間、わずか 30 年程の歴史です。

つまり、「ホスピスケア」とは「尊厳と自律ある生＝自分らしく生きたい」を求めた人々の話を真摯に聴き、その求めの中で実践と活発な変化を続けてきたケアなのです。「自分らしく生きたい」と願う人の力になれるケアが「ホスピスケア」なのであれば、その実践は、きっと病気の有無に関係なく、多くの人に役立つものと考えます。そして、専門家だけでなく、同様の思いを持った地域の方々とも課題を共有し取り組むことができると考えます。それが、当法人が「地域づくり」を

目指す理由です。そして、地域を応援し、地域に応援される（されやすい）組織は何かと探し求めた結果、特定非営利活動法人（NPO 法人）を見出し、今に至るのです。

このように、ホスピスケアが持つ「社会性」「運動性」は、これからの少子高齢社会の中で、よりホスピスケアの可能性を感じさせます。毎号掲載される、人とケアと地域の関係性からうまれた話の一つひとつが、そのことを確信もって伝えてくれます。

そして、その可能性を広げるために、非営利組織として、一言で述べるなら、「現場の取組みで得た利益は、現場の取組みに還す」ことにしています。役員報酬や配当など、現場に還すべき分が減算される営利企業との大きな違いです。

当法人は、「あなたらしさを支えます」を旗として掲げ、これからもホスピスケアの普及のため、地域の中で、地域とともに歩んでいきます。

応援の程、宜しくお願い致します。



いつぶく荘入居者さんの作品。
100歳を超えて迎えた『春』です。